



2022年6月24日

各 位

会 社 名 株式会社サンテック  
代表者名 代表取締役社長 加藤 剛志  
(コード番号 1960 スタンダード市場)  
問合せ先 執行役員管理部長 船戸 文英  
(TEL. 03 - 3265 - 6181 )

### 当社取締役会の全体としての実効性の評価結果の概要について

コーポレートガバナンスの実効性を向上させるための取り組みの一環として、コーポレートガバナンス・コード補充原則4-11③に基づき、当社取締役会の全体としての機能向上に資する目的で、昨年に引き続き本年度も独立社外取締役と独立社外監査役で構成される独立社外役員会が主体者となって当社取締役会の全体としての実効性の評価を実施いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

#### 1. 評価の方法

全取締役・監査役に対して本評価活動の趣旨を説明の上、昨年と同様記名式にて、質問票を配付し、以下項目に分けてアンケートを実施しました。

評価を実施した項目

- ・取締役会の構成、取締役会の運営・監督状況
- ・社外取締役、社外監査役、指名・報酬委員会の構成と役割、運営状況
- ・取締役会の支援体制、ガバナンス体制、実効性全般
- ・株主その他ステークホルダーとの関係
- ・総括とその他
- ・DX推進における以下項目  
取締役の選任、ビジョン、経営トップのコミットメント、仕組み、事業への落とし込み、  
ビジョン実現の基盤としてのITシステムの構築、ITシステム構築におけるガバナンス・体制、経営陣の評価、ステークホルダーへの情報開示

#### 2. 評価結果の概要

独立社外役員会が当社取締役会へ報告した評価の内容は、昨年に引き続き「概ね良好」との結果でありました。また、今回よりコーポレートガバナンス・コード補充原則4-11①に則り、取締役会全体としての知識・経験・能力のバランス、多様性及び規模に関する考え方を定め、各取締役に求める知識・経験・能力等を一覧化したスキル・マトリックスを作成・開示しました。当取締役会としては、当社の取締役会において経営上重要な事項の承認と業務執行を行うための実効性が当社取締役会全体として確保されていると評価しました。

なお、以下項目につきまして、改善の余地があるとの評価を受けました。

- ・昨年4月より稼働した新基幹システムが定着化しているが、さらに新システムを活用し、コロナ感染症対策も含めた生産性向上に向けた業務手法・業務体制の見直しのスピードを上げる必要がある。
- ・第13次中期経営計画・新社長体制スタートにより、今後のサンテックグループ全体の大きな長期的・戦略的方向付け、経営計画を具体的に推進する体制作り。
- ・DX推進については 新システム開発を受けて、そのインフラを活用する取組みが不十分であるとの評価であり、今後一段とDXにおける十分な議論と明確な合意形成が求められる。

#### 3. 今後の対応

今回の評価で改善の余地があると評価を受けた点を含め、今後当社取締役会は、取締役会全体として機能を向上させ、より実効性が高まるよう努めてまいります。

以 上